

IV 県内の防災教育の取組について

防災教育と「こころのサポート」

心の授業と防災教育を組み合わせることで、心のケアと防災意識の向上をより効果的に行うことができる。

大槌町立吉里吉里中学校

【防災週間】

【こころの授業】（SC、教員）

- ・防災の学習への心構え、リラクゼーション



【自分の命を守る】（慶應義塾大学 大木研究室）

- ・災害発生時に、どう判断・行動するかを考える。



【他の命を守る】（日本赤十字社）

- ・応急手当講習会〔心肺蘇生法、応急手当〕



【小中合同避難訓練】（関係機関）

- ・登校中、自分で判断し避難する。

- 吉里吉里中学校では、防災週間の事前・事後で、防災学習や訓練の心理面への影響を調べるため、「防災アンケート」（兵庫教育大学大学院・富永教授作成）を活用した。

- アンケートの分析及び面談等から明らかになったことを、次年度の計画に生かす。

心理面への影響で分かったこと（例）

- (+)防災について学習して安心した。
- (+)災害発生のメカニズムや、サイレンの意味を学習して、サイレンが怖いものではないことが分かった。
- (+)避難場所で多くの友達と会えたことで、安心した。
- (-)映像や音で、震災の記憶がよみがえってしまった。

こころのサポート事業 スーパーバイザー 富永 良喜 教授(兵庫教育大学大学院)のコメント

被災地での防災教育はつらい体験を思い出させます。被災した子どもや教職員の個性を大切に、その地域に適した防災教育を構築していく必要があります。「これはつらいよ、いやだよ」と表現できる機会を設けて、その苦しみを分かち合う信頼の絆があってはじめて、防災教育が生きる力につながると思います。

県総合防災訓練

岩手山噴火を想定して、八幡平市、滝沢市、雫石町で、平成26年8月30・31日に実施。今年度より、新たな訓練項目として、「学校・家庭・地域が連携した防災学習・防災訓練」を行い、学校・家庭・地域の防災力の向上を目指す。



煙体験

〔八幡平市立田頭小学校〕



応急担架作り

〔滝沢市立柳沢小中学校〕

〔滝沢市立一本木小学校〕



避難者名簿作成訓練

〔滝沢市立滝沢第二中学校〕



保護者への引き渡し訓練

〔雫石町立上長山小学校〕

平成26年度実践的防災教育推進リーフレット

実践的防災教育の推進に向けて

～学校・家庭・地域・関係機関の連携～



地震発生時の対応についての学習  
〔西和賀町立湯田中学校〕



大雨洪水についてのワークショップ  
〔県立雫石高等学校〕



県防災教育研修会での  
イメージトレーニング型訓練



沿岸部での災害ボランティア活動  
〔八幡平市立西根中学校〕

はじめに

東日本大震災津波の教訓と近年の自然災害の発生状況を踏まえ、児童生徒が自然災害に際し自らの命を守り抜くための「主体的に行動する態度」の育成や、安心で安全な社会づくりに貢献する意識を高め、未来を担う「ひとづくり」を推進していくために、文部科学省の「実践的防災教育総合支援事業」の委託を受け、実践的な防災教育の推進に取り組んでまいりました。

本リーフレットでは、本事業で取り組んだ実践内容及び県で取り組んでいる防災教育について紹介します。本リーフレットを参考に、避難訓練の方法を工夫したり、防災教育の学習計画を見直したりするなど、実践的な防災教育のさらなる充実を図ってください。

岩手県教育委員会



# I 防災に関する指導方法等の開発・普及のための支援事業(西和賀町)

ねらい：児童生徒が地震災害の危険に際して、自ら命を守り抜くための「主体的に行動する態度」を育成する。  
内 容：緊急地震速報システムを活用した防災教育の具体的な指導方法を開発し普及する。

## 地震防災の授業の具体化

慶応大学SFC大木准教授の理論をもとに、地震防災の授業の具体化を図る。「地震を知る」「危険を考える」「行動する」という枠組で授業化。

ねらい 地震から自分の命を守るための方法を学び、家族や地域に知らせることができる。



## 地震防災の授業プラン作成と町内各校での実施



授業化により明らかになった重要指導事項を盛り込み「授業プラン」を作成。町内の学校に配布し、それをもとに各校で、児童生徒の実態に応じた実践化を図った。

今日学習して、家族と一緒に、ショート避難訓練をやってみようと思いました。



- 町内すべての小中学校に緊急地震速報システムが整備され、地震災害への備えが充実
- 町内において「地震防災授業」や「ショート避難訓練」の具体的方法が共有化
- 緊急地震速報システムの活用による、各校の実態に応じた防災教育の具体化
- ☆ ショート避難訓練の共通理解や講師招聘による実践への助言を得る機会の確保

## II 学校防災アドバイザー派遣事業

ねらい：防災の専門家から指導・助言を受けることで、学校の防災体制の確立、防災教育の充実を図る。  
内 容：岩手大学、盛岡地方気象台等の専門家を学校に派遣し、職員研修や児童生徒への講話等を行う。

### 具体的内容

- 職員研修■
  - 避難訓練のあり方の見直し
  - 危機管理マニュアルの見直し
  - 防災教育の進め方
- 児童生徒の防災意識の向上■
  - 防災に関する講話
  - ワークショップ「防災マップづくり」「経験したことのない大雨 そのときどうする?」

## アドバイザーの活用例

### 避難訓練の実施・見直し



〔県立気仙光陵支援学校〕  
地震発生から1次避難、2次避難、保護者引き渡しまで訓練を実施し、外部の専門家のアドバイスを受ける。けが人の搬出、破損箇所の設定など、実践的な訓練を実施。

### 危機管理マニュアルの見直し



〔滝沢市立柳沢小中学校〕  
アドバイザーを2回派遣。1回目（1学期）にマニュアルの課題を明らかにする。2回目（2学期）に見直したマニュアル案を全職員で災害発生時をイメージしながら協議。

### 児童生徒への講話・演習



〔普代村立普代小学校〕上  
〔大船渡市立吉浜中学校〕下  
自然災害発生のメカニズムや身の守り方についての講話（普代小）や、大雨洪水に対する情報の入手・判断、避難のあり方についてのワークショップ(吉浜中)を実施。

## III 災害ボランティア活動推進・支援事業

ねらい：災害時の助け合いの重要性を理解し、支援者として主体的に活動する態度を育成する。  
内 容：5市町の小・中学校が被災地を訪問し、仮設住宅訪問など、災害ボランティア活動を行う。

### 八幡平市立西根中学校

### かわり続ける復興支援ボランティア

3年間、同じ地域を訪問し続けることで、自分たちに何ができるかを考え、ボランティア活動に取り組んでいる。

学 年	訪問先	学習内容・活動内容例
1 年 生	陸前高田市	未来商店街訪問、仮設住宅の清掃・草取り・交流
2 年 生	宮 古 市	旅館女将の話（被災体験、復興の様子）、駅舎清掃
3 年 生	大 槌 町	釜石東中の避難、花壇整備、仮設住宅での清掃活動や合唱披露

人のために何かをすること、優しさを学んだ。友達を大切にして、部活や勉強でことに感謝して、生活を送りたい。

僕たちの合唱を聞いて泣いている方々もいて、逆に感動した。もっと自分たちに出来ないことがないか探していきたい。

